

**職場を原点にした日常活動を通じて、  
JR東労組の再構築に向けて、たたかいの成果と到達点を確認!**



**秋のたたかい総決起集会  
451名が結集!**

**11/20 滝野川会館大ホール**

東京地本は、2月以降のJR東日本会社の非組合員化をめざした悪辣で熾烈な脱退強要・不当労働行為の大弾圧に抗し、組織の総力をあげてたたかいをつくり出してきました。この秋のたたかいでは「職場を原点にした日常活動の強化を通じて、組合員の信頼関係を醸成し全機関役員の総力で組合員の利益を守るJR東労組を再構築しよう!」のスローガンを掲げ、不当労働行為を許さないたたかい、分会大会の成功や施策に向き合うことで、JR東労組の運動と組織の再構築に向けて奮闘してきました。そのたたかいの成果と到達点を確認し、組合員の利益を守るための組織と運動を強化していくために「秋のたたかい総決起集会」を開催し、参加予定数を大きく上回る451名が結集しました。

集会冒頭では、秋のたたかいの大きな柱である分会大会に、予定していた83分会の分会大会が全て開催され、運車では6割、営業・工務職場で9割の組合員が結集し、地本も全分会大会に参加し組合員の声を真摯に受け止めてきたこと。職場で発生した全ての不当労働行為を明らかにするメモは1267件集約し、申1交渉では会社に具体的な不当労働行為の事象を突きつけてきたが、一方の側のみ調査やあらかじめ用意していた回答を繰り返すのみで労使の合意形成の努力をせず、事象について誠実交渉義務に違反していることを席上で通告し、新たに緊急申し入れをしていく。そして、打開できなかつた場合は次なるたたかいの準備に入ることなどについてたたかいの方向性について提起がありました。

全体討論では、分会大会について組合員の声を聞くことにこだわり創意工夫した開催や、目標数を大きく上回る参加で開催し、労働組合の必要性を再確認することができたこと。また、東総セ支部からは「新鉄労の組織破壊に抗し、支部再建に向けて準備委員会を立ち上げて議論を積み重ね、支部再建大会を開催し圧倒的成功を勝ち取ってきた」と自信と確信に満ち溢れた報告がありました。

そして多くの参加者から、今もなお引き起こされている不当労働行為に対し「団体交渉の会社回答では、不当労働行為は止まらない」「職場の行事参加をめぐり東労組組合員によって差別や区別されている」「昇進試験や国家試験の運転士試験まで区別・差別されている」と申1交渉の会社回答と異なる職場の現実が明らかになりました。また「労基署に相談したら、職場の実態に驚かれ『証拠を積み上げて、都労委に行くのがいいとアドバイスをもらった』」「あったことは無かつたことに出れない」「おかしいことに黙ってはいけない』など、差別や区別、ハラスメントや人権侵害、法令違反が横行していることに対する怒りの声とたたかいの報告がありました。

会社施策では常磐線特急車掌一人乗務の進め方や内容に対する問題点が出され、「中央線特急の新着席サービスについて一方的にプレス発表されたが、社員への周知がないので現場では旅客からの問い合わせに対応できない」など、施策実施に向けて現場と乖離している現実が出されました。

東京地本は、この間のたたかいの成果と到達点を確認し、組合員に寄り添い、声に基づいた運動で問題の改善をめざしていきます。今後も、温もりある強固な組織で組合員の利益を守る、JR東労組の運動と組織の再構築に向けて、全職場からたたかいを推し進めていきましょう!